正常なテストレポートが取得されているかを確認する方法

テストレポートが取得できたところで、正常なデータが取得できているか確認してみましょう。

誤ったレポートデータとは？

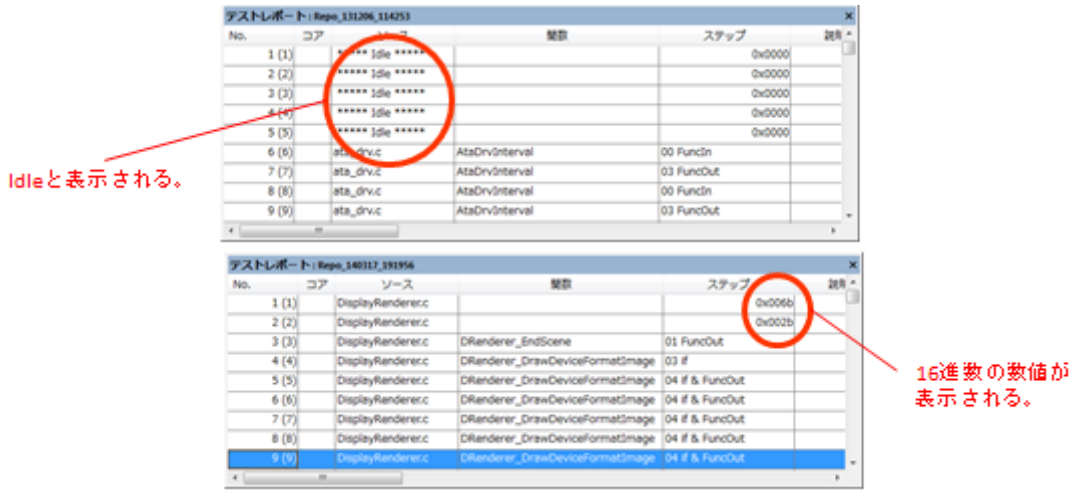
テストレポートは、ターゲット機器が出力したテストポイントの通過情報に対して、DT＋Traceプロジェクトで管理するソースファイル名・関数名・ステップ種別の情報を紐づけして表示します。

しかし、以下のような問題があった場合、取得したデータと識別を管理する情報の不整合により、誤ったレポートデータが取得される可能性があります。

- ターゲットへ組み込むドライバの問題
- ターゲットとの物理的な接続・ノイズの問題
- DT+Traceプロジェクト作成時の誤った設定・手順など。

誤ったレポートデータの具体例

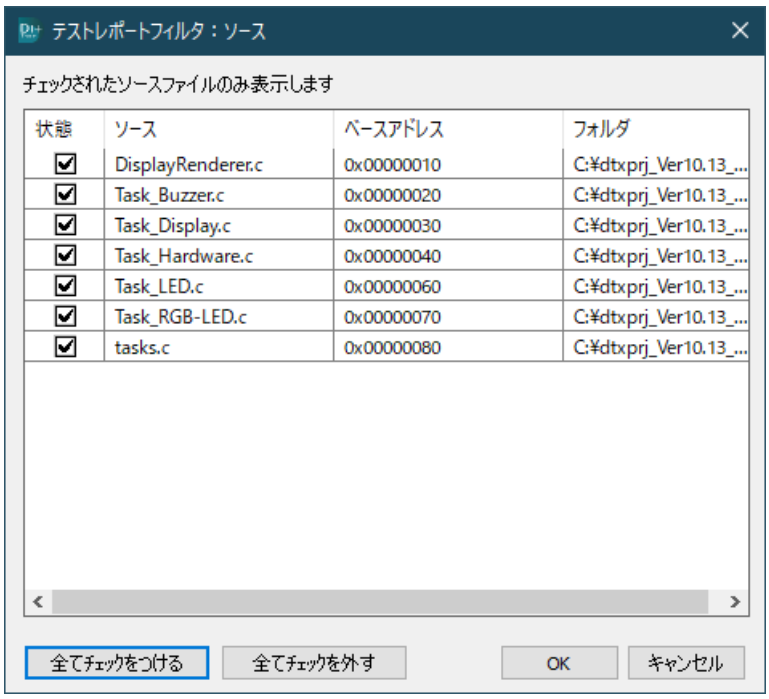
- ソース名のカラムに「*****Idle*****」と表示されるデータがある。
- 関数名のカラムに「*****Event Trigger*****」と表示されるデータがある。
- 変数値出力ポイントを挿入していないのに、「*****Dump Memory *****」と表示されるデータがある。
- 変数値出力ポイントが挿入された処理を通過していないのに、上記の誤ったデータが表示される。
- ソース名、関数名、ステップ名のカラムに、「0x01」などの16進数の数値データが表示される。



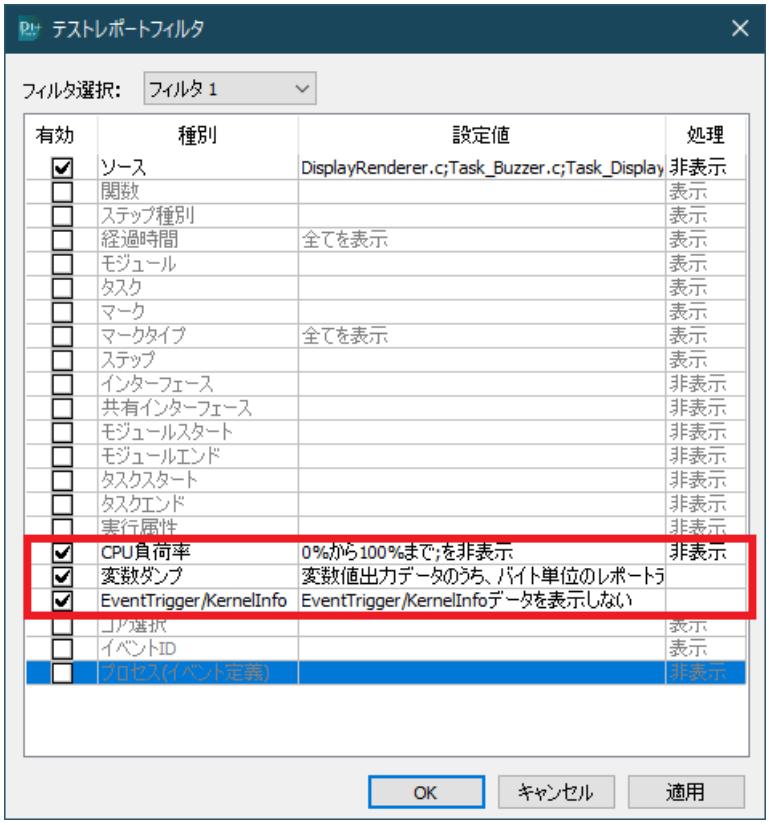
テストレポートフィルタ機能を使った確認方法

DT+Traceのテストレポートフィルタ機能を使用することでテストレポート内の誤ったデータを発見することができます。

1. ソース名をフィルタの対象にする。
    - チェックしたソース名のデータがフィルタ対象となります。



2. ソース名のフィルタ処理を[非表示]で[有効]にチェックする。
    - 選択したソース名を対象に非表示のフィルタとして、有効化します。
    - CPU負荷率のデータを無視する場合は、非表示にします。
    - 変数ダンプ、EventTrigger/KernelInfoのデータを無視する場合は、有効化します。



3. フィルタ後のテストレポートで判断する。

4. ソース名で非表示のフィルタを設定した時と同様に、関数名・ステップ種別についても、非表示フィルタを有効にして、誤ったデータがテストレポート上に表示されないことを確認していきます。